

地域貢献部門大賞

共同選果機を核に「なす」産地を発展 若い後継者も数多く確保

共同選果機の導入を契機に高品質なす・きゅうり生産体制を確立するとともに、地域の担い手農家の育成を図るなど、地域農業の活性化に大きく貢献した。

団体名：ひびきの南部選果機利用組合

市町村：本庄市

主な作目：なす、きゅうり等

1 活動の特色

- (1) 共同選果機導入による余剰労力の活用により、生産規模の拡大、品質向上を実現
- (2) 新技術、新品種の導入により産地の基盤を確立
- (3) 流通動向に即した品種・播種期を統一、消費者ニーズに即した販売体制を確立
- (4) 組合内に「茄子部会若者会」「胡瓜部会若者会」を組織、若い担い手が熱心に活動

2 活動の波及性

- (1) 共同選果機は稼働率85%と非常に高く、多くのパートを雇用するなど地域農業の活性化に大きく貢献
- (2) 出荷調整作業が短縮化されたことにより、Uターン就農者、新規参入者など新たな担い手を数多く確保

3 審査員コメント

作業の効率化、新品種の導入、若い後継者の育成確保など、地域の農業発展に多大な貢献をしている。生産拡大＋若手育成＋新規就農者確保と非常にバランスがよい。新規参入者を多く確保している点も評価できる。

推薦：本庄農林振興センター

地域貢献部門優秀賞

一致団結、コシヒカリの一大産地を築く

埼玉県のコシヒカリ産地を確固たるものとし、「北川辺こしひかり」をブランド化した。良質米生産により地域農業の発展に大きく貢献した。

団体名：北川辺米の会
市町村：加須市
主な作目：米

1 活動の特色

- (1) コシヒカリ栽培技術を確立するため、日夜研鑽し「コシヒカリを倒さず栽培する」栽培方法を確立
- (2) 各農家単位にコシヒカリ展示ほを設置、栽培技術の普及を図り、コシヒカリが地域の水稻品種の90%まで普及
- (3) 「北川辺こしひかり」のロゴマークを商標登録することにより、北川辺産コシヒカリのブランド力を強化
- (4) 平成10年、県内でいち早く地産地消を実践、小学校の学校給食に北川辺産コシヒカリを全量提供
- (5) 高齢化による地域の担い手不足に対応するため、米の会会員が農地の受け手となり活躍

2 活動の波及性

- (1) 「北川辺こしひかり」の産地化により、近隣市町にもコシヒカリ栽培が普及、県東部の良食味米産地化を牽引
- (2) 栽培困難な農家からの農地を請負、作業受託など効率的な土地利用を実現
- (3) 地域住民との交流機会を拡大することにより地域農業の活性化に貢献

3 審査員コメント

県を代表するコシヒカリ産地であり、組織として常に「北川辺ブランド」の向上に取り組んでいることは高く評価できる。

推薦：加須市

地域貢献部門優秀賞

地域リーダーとして、山東な、こまつな産地の礎を築く

「自分で考え、できることは自ら実践する」という理念の下、長年にわたり地域リーダーとして、さいたま市岩槻地区の野菜産地化に大きく貢献した。

氏 名：高橋 博
市 町 村：さいたま市
主な作目：山東な、こまつな

1 活動の特色

- (1) 地域の農家と共同し、山東な、こまつな周年栽培経営を確立
- (2) 岩槻共販出荷協議会や岩槻地区の農業団体がまとまった、南彩農協いわつき農業団体連合会の設立に尽力
- (3) 8月31日を「いわつき野菜の日」、3月17日を「山東なの日」、毎月7・8日を「菜っ葉の日」として定め、岩槻野菜の販売促進イベントを展開
- (4) 遊休農地をコスモス畑とし、地域住民と「コスモス祭り」を開催

2 活動の波及性

- (1) 山東な、こまつなの周年栽培をいち早く確立するとともに共販体制を構築し、岩槻野菜産地の礎を築く
- (2) 積極的に多彩な販売促進を行うことにより、岩槻野菜のブランド化に尽力
- (3) コスモス祭りは地域住民や小学校等と連携した取組であり、地域住民との交流や都市農業の理解促進に貢献

3 審査員コメント

山東な、こまつなの周年出荷栽培体制を構築し、岩槻野菜産地の基礎を築いた功績は大きい。生産者・消費者・行政の架け橋となり活躍され、岩槻野菜の産地化に大きく貢献した。

推薦：さいたま農林振興センター